

731部隊の史実を語り継ぐ連続学習会・第23回

「全国の平和博物館の現状から見た 飯田市平和祈念館の特色と課題」

オンライン講演(ZOOM)

飯田市平和祈念館での旧日本陸軍「731部隊」に関する資料展示について考える市民有志「市平和祈念館を考える会」は23日、同市上郷公民館で公益財団法人政治経済研究所(東京)主任研究員の山辺昌彦さん(78)を招いた学習会を開いた。

全国の歴史資料館や平和博物館などを約40年にわたり調査してきた山辺さんは「全国の平和のための博物館の現状からみた飯田市平和祈念館の特色と課題」と題して講演。戦争の加害性を伝える施設が批判を受けて展示を控える状況が進む中で「飯田市が戦争の加害

中野 隆

戦争加害展示努力には大きな意味

飯田の平和祈念館を考える会

政治経済研究所の山辺さん招き学習会

性を展示しようとしている努力は大きな意味がある」と指摘。「市が、市民の声を聴いて検討を続けているのは大事」とした上で、同館の課題として「専門の学芸員を研究職として置き、展示内容を展覧させていく必要がある」と話した。

昨年開館した同館を巡っては、市が731部隊に関する展示を見送ったため市民から反発の声が上がった。市は市民の要望を受けて展示内容を再検討し、部隊の細菌兵器の製造や使用を認めた東京地

裁の判決文を引用したパネルを今年9月に展示。一方、元隊員による証言パネルの展示は見送り続けている。(安江紗那子)

「祈念館は図録などを作り、歴史の記録を残す取り組みも大切」と話す山辺さん。飯田市上郷公民館で



お話：山辺昌彦さん

(公益財団法人 政治経済研究所主任研究員)
(この講演は、11月23日の「飯田市平和祈念館を考える会」第5回目の学習会で講演された録画です。)

2024年 3月7日(木) 19:00~20:30

(録画を放映した後、質疑応答)

18:45から入室可能

参加費無料

申し込み希望は nobu.goi@gmail.com (五井信治) まで
定員100人で締め切らせていただきます。

主催：731ネットワーク